



エコ・ファーストの約束（更新書）

ー 環境先進企業としての地球環境保全の取り組みー

子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

環境大臣 西村 明宏 殿

2023 年 8 月 7 日

清水建設株式会社
取締役社長

井上 和幸

清水建設株式会社は、グループ環境ビジョン「SHIMZ Beyond Zero 2050」において、自社の活動による環境への負の影響をゼロにするだけでなく、顧客や社会にプラスの環境価値を提供することを目指しています。実現すべき持続可能な社会を「脱炭素」「資源循環」「自然共生」の3つの視点で捉え、イノベーションによる豊かな環境価値の創造に取り組んでまいります。

1. 脱炭素社会実現への貢献

2050 年に自社の事業活動における CO₂排出（Scope1+2）ゼロを目指すとともに、設計施工建物の運用時の CO₂排出（Scope3）ゼロなど、サプライチェーンを通して脱炭素社会に貢献していきます。

【Scope1+2】

- 建設工事による CO₂排出量を 2030 年に 1990 年比 70%削減、2050 年にゼロを実現します。
- ICT 施工によるエネルギー生産性向上、重機・車両での軽油代替燃料の使用、再生可能エネルギー由来電力の導入等を推進します。
- 自社オフィス（本社・支店・営業所）において、省エネルギー、自社技術の導入、再生可能エネルギーの導入等により、CO₂排出量を 2030 年に 1990 年比 70%削減、2050 年にゼロを実現します。

【Scope3】

- 建築設計施工案件において、建物運用時 CO₂排出量を 2030 年に 1990 年比 66%削減、2050 年にゼロを実現します。
- 新築及び既存建物における ZEB 実装のための技術開発、提案を推進します。
- スマートシティ事業において、「豊洲スマートシティ」での取組みを起点とし、水素活用をはじめとした脱炭素ソリューションの他地域への展開を推進します。
- 不動産開発事業では、2030 年までに国内の主要保有物件への再生可能エネルギー由来電力 100%導入を目指します。併せて、保有賃貸物件の省エネルギー性能の向上や、テナント入居者との協働による省エネルギー推進により、カーボンニュートラルを目指します。
- 気候変動による事業への影響を重要な経営課題の一つと捉え、ESG 経営の観点からも関連情報の開示が不可欠と認識しています。2019 年に TCFD 提言への賛同を表明し、2020 年から同提言に沿った気候関連の情報を開示しています。

2. 資源循環社会実現への貢献

2050 年に自社事業による廃棄物の最終処分ゼロを目指すとともに、資材調達～解体の施設ライフサイクルにわたり資源の循環に貢献していきます。

- 作業所・自社保有オフィスにおいて、3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動を推進します。
- 建設廃棄物の徹底分別により、混合廃棄物を削減し、2030 年に最終処分率を 3.0%未満に抑制します。
- 廃プラスチックの素材・種類による分別を徹底し、品目別最終処分率を現行 20%から 2030 年 15% 以下に低減します。
- 建築物の木造・木質化を推進し、木材使用量を増やしていくことで、健全な森林の育成に貢献します。

3. 自然共生社会実現への貢献

2050 年に自社事業で自然環境に与える負の影響ゼロを目指すとともに、グリーンインフラ導入により、生物多様性をプラスにし、人と自然の持続可能な共生に貢献していきます。

- グリーンインフラ導入による、みどりの「多機能性」を生かした景観形成や、地域社会の課題解決を通じた自然資本の保全により、生物多様性がプラスされた、ネイチャーポジティブで豊かな環境を次世代に残していきます。
- 先行プロジェクトで 2021 年より開始した生物多様性の定量評価ツールのプロジェクト適用を段階的に拡充し、2030 年までに社内標準化を目指します。
- 技術研究所の都市型ビオトープ「再生の杜」や千葉県富里市の「八ツ堀のしみず谷津」などの先行事例から学び、都市から郊外、山間部までさまざまな立地に応じた、グリーンインフラのモデルづくり・提案を年 10 件以上推進します。
- 江東区と共同で生物多様性に配慮した土地利用認証「ABINC ADVANCE」を取得した新施設「温故創新の森 Novare（ノヴァーレ）」では、生物多様性に配慮した大規模な緑地を備えた新たな拠点として、企業活動における自然と人との共生を促進していきます。
- 30by30 アライアンスなどの社外団体に参画し、産官学及び地域との協働連携を通して、地域循環共生圏に資する多面的・広域的な生態系保全や再生に貢献します。
- 自社施設緑地等を自然共生サイトに登録し、科学的な実証データを蓄積・公開することによって、30by30 目標の達成に貢献します。

4. ステークホルダーと共に行う地球環境保全への貢献

発注者、地域社会、グループ企業、協力会社など、さまざまなステークホルダーと共に、以下の活動を推進します。

- 社会人・青少年向けの常設公開講座「シミズ・オープン・アカデミー」のプログラムの一つ、「再生の杜ビオトープ」見学では、2030 年までに 50,000 人の見学者受け入れを目指します。社内・グループ企業・協力会社向けの環境教育を含めて、持続可能な開発のための教育（ESD）を拡充します。
- 世界最大級の自航式 SEP 船「BLUE WIND」による着床式洋上風力発電施設の建設事業推進や、自社運営の再生可能エネルギー発電施設の拡充、電力小売・ソリューション事業を通じて、再生可能エネルギーの普及・拡大に貢献していきます。
- グループ企業全体で環境経営を推進するとともに、サプライヤーと共に持続可能な調達を推進します。

清水建設株式会社は、上記取組みの進捗状況を確認し、環境省へ報告するとともに、コーポレートレポートおよびホームページによる公表を行って参ります。